



金融 融機関へは通常、数年に1度、監督官庁である金融庁による立入検査が行われます。ここでは貸出資産の査定分類の検証のほか、各種法令遵守の状況や組織としてのガバナンスの状況などが点検されます。その際には評価基準を示す一定の物差しが必要です。金融検査マニュアル（以下、マニュアル）はそうした意味で有効に機能していました。

●マニュアルを絶対視

一方、金融機関側で、マニュアルで示される基準だけが絶対視されるなど問題も生じていました。特に債務者の区分では、マニュアル（別冊の事例）で、短期手形貸付の継続について、正常運転資金を超える部分は不良債権にあたるか検討が必要とされ、多くの金融機関がかかる資金を手続きが煩雑な長期証書貸付で対応するようになった弊害がありました。

一般のマニュアル廃止は、金融機関の自律的な対応を促す側面が強いと思われます。

特別企画

マンガ・金融検査マニュアルの廃止と実務への取組み

マンガ監修・解説 ●木内清章 産業能率大学講師

金融検査マニュアルの廃止の背景や求められる取組みをマンガで解説します。

Q 金融検査マニュアルって何？
1 なぜ廃止されるの？

